

松禪寺報

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰
 〒668-0363
 兵庫県豊岡市但東町栗尾 469
 電話 0796-55-0034
 FAX 0796-55-0066
 Mail kenpou@syozen.com

第118号

<https://syozen.com>
<https://www.facebook.com/syozenji>
 発行日 令和8年4月25日

世界中の仏教徒が祝う花まつり

毎年4月8日はお釈迦様の誕生を祝う「花祭り」が行われます。当寺では5月5日のこどもの日に、花御堂に誕生仏を安置し、甘茶を注いでお釈迦様の徳をたたえる行事として営んでいます。



▲多くの人が集うヴェサク祭=ネパール

院を巡り、夜には灯明が輝く幻想的な光景が広がります。

ネパールの人々は、この時期に天界と地上の通路が開くと信じ、自身の原点である「めざめ」に祈りを捧げます。命に感謝し、戒めを保つというその素朴な思いこそ、仏教徒にとって最も大切な修行なのです。

お釈迦様の誕生を祝う行事が、国や地域によって異なる形態をとっています。日本では4月8日の「花祭り」が一般的ですが、ネパールでは誕生・成道・涅槃を同日に祝っています。また、ヒンドゥー教徒はお釈迦様をヴィシュヌ神の化身として崇めています。宗教が対立するのではなく、互いの尊さを認め合い、独自の

この日はヒンドゥー教徒にとっても「ヴェサク祭」として重要です。彼らはお釈迦様を、世界を維持するヴィシュヌ神の化身と考えているからです。ネパールの5月の満月の日、人々は五体投地で寺

解釈で融合しながら共存している姿がうかがえます。一つの真理が土地の文化に合わせて多様に花開く様子は、現代の多文化共生社会においても重要な示唆を与えてくれます。



当寺が本来4月8日の行事を5月5日の「こどもの日」に行っているのは、お釈迦様の誕生を祝う行事を、次世代を担う子供たちの健やかな成長と結びつけたものです。ネパールの熱狂的なヴェサク祭と、日本の地域に根ざした花祭り。形は違えど、お釈迦様の徳をたたえ、その教えを生活の中に守り伝えようとする人々の思いの深さは共通しています。伝統とは単に形式を守ることではなく、その精神をいかに現代の生活の中で活かしているかにあります。

過酷な状況でも楽しみを見出す人生とは

『少水の魚に楽しみ有り』をテーマに法話会を開教

3月18日（水）、妙心寺派定期巡教を開催いたしました。今年のテーマは「少水の魚に楽しみ有り」今ここを生きるしあわせ」です。当日は、布教師として大分市・法雲寺住職の竺泰道師をお迎えしました。



▲自ら動き社会との関わりを持ちましようと話される竺泰道師＝3月18日

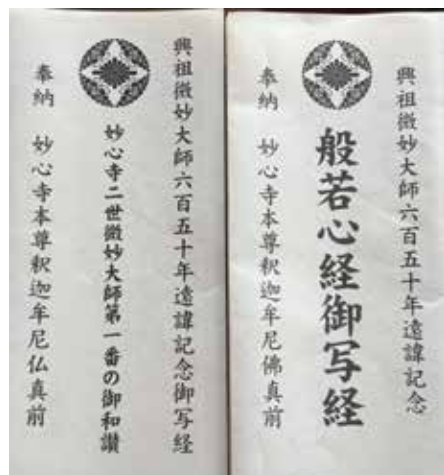
平日の開催ではありませんでしたが、桂昌寺の檀家様方を含め17名の方にご出席いただき、皆様、竺師の丁寧な法話に最後まで熱心に聴き入っておられました。

「少水の魚」の言葉が示す通り、私たちは水が干上がるように一日一日と命を削りながら生きています。しかし、妙心寺第二世・微妙大師（授翁宗弼）様は、そのような過酷な状況の中にあつても、楽しみを見出す人生は可能であると説かれています。

竺師は、過度な「求め」や「執着」こそが悩みや苦しみを生むと指摘されました。その上で、楽しみのある人生を歩むためには、自ら動いて心から楽しもうと努めること、そして積極的に社会との繋がりを持つことが大切であると説かれました。最後は、心からの「ありがとう」という感謝の気持ちが何より肝要であると結ばれました。

苦しみや悲しみ、怒りと向き合い、それをいかに克服すべきかを問い続けること。それこそが微妙大師様の願いであり、私たちの歩むべき道であると再確認する貴重な機会となりました。

興祖微妙大師六百五十年 遠諱写経のお願い



臨済宗妙心寺派ではこの度、興祖微妙大師六百五十年遠諱という大きな節目を記念し、写経を推進しています。

そこで、檀信徒皆様に写経用紙『般若心経』と『二世微妙大師第一番の御和讃』の2枚をお配りしています。微妙大師への報恩感謝を捧げるとともに、世界平和や皆様のご先祖供養、諸願成就を願い、心を込めて写経に親んでいただければ幸いです。

写経は一卷につき納経料1千円を添えて松禪寺までお持ちください。この写経は、妙心寺微妙殿に奉納されます。期間は令和9年3月31日まで。

なお、この写経はけっして強制するものではありません。

春彼岸法要を執り行いました

春分の日である 3 月 20 日、当寺において春季彼岸会を厳修いたしました。当日は 25 名の参拝を賜りました。

早朝より当番の皆様にお力添えをいただき、心を込めたお弁当をご準備いただきました。午前 11 時からの法要では、参拝者各位および当寺檀信徒各家のご先祖様を丁寧にご供養申し上げました。

法要に続く会食では、全員で「食事五観の偈」を奉唱いたしました。生かされている命に感謝を捧げ、共に膳を囲むことの尊さを分かち合い、和やかな交流の場となりました。

寒冷な冬を経て、万物が躍動する春の彼岸。新たな季節の営みへの希望と感謝を深く心に刻む中日となりました。



▲春彼岸会にお参りいただいた皆さん = 3 月 20 日



春は桜花に入りて禅庭に満つ

今年も桜が咲きました。今シーズンの重い雪に耐え切れず、折れてしまった枝も多く見られました。が、それでも力強く咲いてくれました。4 月 5 日から 9 日までライトアップを行い、雨や風にさらされながらも、ちらほらと花びらを散らす様子がこの春を彩っていました。

『吉野山 梢の花を見し日より 心は身にも添はずなりにき』(西行)

西行法師は吉野の桜に特別な感情を抱いていたようです。桜の咲く季節になると、心も身も落ち着かない状態になり、その花曇りの色に心が染められてしまう様子が伺えます。

花の中でも特に桜には、日本人の心を浮き立たせる何かがあるようです。そこには「散る」ということへの、生命に対する特別な思いがあるからに違いありません。無常ということを頭でなく、本当に心に感じていた人々がいたので



人天蓋修理に伴う浄財勸募

多くのご協力に感謝申し上げます



本堂中央に吊り下げられた「人天蓋」の修理に伴う浄財のご寄付を、本年2月15日より檀信徒の皆様にお願ひしてまいりました。募集期間は4月30日までとなっております。現時点では詳細なご報告は叶いませませんが、おかげさまで町内外より多大なるご協力を賜り、目標金額を上回るご寄付をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

現在修理中の人天蓋は、5月中旬には美しく蘇り、再び本堂に吊るされる予定です。改めてその結果および詳細につきましては、後日ご報告させていただきます。誠にありがとうございました。

5月24日 境内掃除のお願い

今年も気温の高い日が続いていますが、本年第1回目の境内掃除を行います。何かとご多忙とは思いますが、何卒ご協力をお願いいたします。

日 時 5月24日（日）

午前8時より約2時間程度

作業内容 境内周辺、霊園及び駐車場周辺の

草刈り、境内の草取り等

持 参 刈払機、松葉かきなど

参加対象 清滝、本城、柴地、大貝、佐田、石原、久

畑のそれぞれの評議員と協力者1名を加えた計2名のご協力をお願いできれば幸いです。



春の眠り

モヤモヤと暖かい春の日に心が居眠りをしている。陽炎が揺れ、時おり微風も吹いてゆく。今日のような日には、仏様もウトウトなさるのではないかと。そう思つてご本尊を見るとうっすらと微笑みを浮かべてそっと頷かれたようだ。



【俳句】

鐘楼も春の眺めの中にあり

山風に揺るる馬酔木の花の房

墓山に藤の花咲く村の昼

句集『五月晴』著者・水繩松生

種蒔きて日付も入れし花名札

入相の鐘ものどかや里の春

手みやげに持たされて来し草の餅

先住・高橋英州

八朔の香り喜ぶ指先も

藤棚の下むらさきのシャワーめく

交差点わきの献花に春の雨

太田弘美 つくば市

モヤモヤと暖かい春の日に

心が居眠りをしている。

陽炎が揺れ、時おり微風も吹いてゆく。

今日のような日には、

仏様もウトウトなさるのではないかと。

そう思つてご本尊を見ると

うっすらと微笑みを浮かべて

そっと頷かれたようだ。